

研究所年報 巻頭の言葉

2004年4月からは本学の独立法人化がスタートし、2005年10月には富山医科薬科大学、富山大学、高岡短期大学の県内国立3大学が統合され、新・富山大学の中で「和漢医薬学総合研究所」として再出発することになり、研究所はまさに大きく変革しつつあります。

研究所の組織としては、8分野と2寄附部門からなる<研究部>と薬効解析部、外国人客員部、国際共同研究部、民族薬物資料館からなる<民族薬物研究センター>から構成されています。その使命としては、天然薬物資源の確保や保全、東西医薬学の融合と基盤研究、漢方医学の診断治療の客間化と人材育成、伝統医薬研究の中核拠点の形成といった課題に向けて一丸となって研究を行っております。

特筆すべきことは、1) 文部科学省21世紀COEプログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創生」、2) 学術振興会拠点大学方式によるタイとの学術交流事業、3) 文部科学省知的クラスター創成事業「とやま医薬バイオクラスター」、4) 文部科学省産業クラスター連携プロジェクト、5) 独立行政法人国際協力機構(JICA)の支援によるミャンマーとの伝統医療協力プロジェクト、6) 北京大学、南京大学、カルフォルニア大学デービス校との国際共同研究拠点の形成事業(COE支援)、7) 和漢医薬学連携ネットワーク事業(COE支援)、8) 経済産業省の中小企業地域新生コンソーシアム研究開発事業、などのプロジェクトに所員が積極的に参画して、研究推進、人材育成、学術交流を行っております。

毎年、恒例で開催している研究所の夏期セミナーや特別セミナーも回を重ねるにしがいい、様々な魅力ある企画がなされ好評であります。第11回の夏期セミナーから、全員の参加者に学長よりセミナー修了証が手渡されました。最近では、北里大学や静岡県立大学のCOEプログラム、あるいはタイ拠点大学交流事業と連携してCOEプログラムを発展させて、ジョイントシンポジウムやセミナーの開催をとおして、さらなる研究業績の発表と討論を行っております。

このように、新大学の中で、研究所は国内外を問わず積極的に共同研究を行い、活性化するとともに、良い巡り合いと優れた研究が出来るように、所員が力を合わせて頑張っております。どうか皆様の暖かいご支援をお願いいたします。

平成19年1月

和漢医薬学総合研究所 所長 済木育夫